

日野 皓正 Quintet

80th Birth Celebration

with スペシャルゲスト 熊谷和徳



Terumasa Hino

80歳を迎えた世界的ジャズ・トランペッター日野皓正
ニューヨーク在住の
日本を代表するタップダンサー・熊谷和徳を迎えた、
日野皓正クインテットによる豪華なステージ！



Kazunori Kumagai

©宮川舞子



加藤 一平 (gt)



高橋 佑成(pf)



Marty Holoubek(b)



高橋 直希 (ds)

2023 **10.8** **日** 16:00開演
(15:30開場)
大津市民会館 大ホール

チケット料金 [全席指定・税込] ※未就学児入場不可 一般 6,000円

チケット発売日 2023年6月24日(土)10:00～ 窓口・オンラインのみ
13:00～ 電話受付

主催：大津市民会館 (指定管理者 株式会社ケイミックスパブリックビジネス)

プレイガイド ・大津市民会館 077-525-1234

*会館オンラインチケットサービス
(座席選択可。要事前登録。
3:00～4:00を除く終日利用可)



・チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード 244-646)
・イープラス <https://eplus.jp/>

お問合せ **大津市民会館 TEL.077-525-1234**

〒520-0042 滋賀県大津市島の関14-1
休館日／月1回保守休館日、12/29～1/3
開館時間／9:00～21:00

後援: radio

企画制作: トップシーン/RUN

profile

ジャズ・トランペッター 日野 皓正



1942年、10月25日東京生まれ。タップダンサー兼トランペッターであった父親より、4歳からタップダンス、9歳からトランペットを学び始め、13歳の頃には米軍キャンプのダンスバンドで活動始める。

1964年、白木秀雄クインテットに参加、翌年のベルリン ジャズ フェスティバルに出演し喝采を浴びる。

1967年、初リーダーアルバム『アローン・アローン・アンド・アローン』をリリース。

1968年、伝説のグループ、菊地雅章との双頭ユニット日野=菊地クインテットを結成、録音。

1969年、『ハイノロジー』をリリース後、マスコミに“ヒノテル・ブーム”と騒がれるほどの絶大な注目を集める。

1972年、ニューポートジャズ フェスティバル出演。

1975年、N.Y.に渡り居を構え、ジャッキー・マクリーン、ギル・エバンス、ホレス・シルバー、ラリー・コリエルなどと活動を重ねる。

1979年、『シティー・コネクション』、1981年『ダブル・レインボー』とたて続けに大ヒットアルバムをリリース。

1982年、『ピラミッド』をリリースし、武道館を含む全国ツアーを行う。

1984年、ロサンゼルス オリンピックアートフェスティバルに出演。

1989年、ジャズの名門レーベル“ブルーノート”と日本人初の契約アーティストとなり、第1弾アルバム『ブルーストラック』は、日本はもとより、アメリカでも大好評を博す。

1990年以降、自身の夢である「アジアを1つに」という願いを含め、アジア各国を渡り歩き、探し集めたミュージシャンと結成した『日野皓正&ASIAN JAZZ ALLSTARS』で、1995~96年に北米-アジアツアーを行う。

1995年、日野=菊地クインテットによる『アコースティック・ブギ』《日本ジャズディスク大賞 金賞受賞》をリリースし、マウント フジジャズ フェスティバルの出演他、ブルーノート・ツアーを行う。

1997年、台湾での「第16回国際芸術祭」、シドニーでの「日豪友好100周年記念コンサート」に出演。

2000年、大阪音楽大学短期大学部客員教授就任。

2001年、インド、パキスタンにて公演の他、西インド地震災害チャリティコンサート、そしてカンボジアでは子供たちのためのチャリティコンサートを行う。アルバムは『D・N・A』をリリースし、全国ツアーを行う。この『D・N・A』プロジェクトは芸術選奨文部科学大臣賞(大衆芸能部門)受賞。

2004年、紫綬褒章受章。また約20年ぶりに映画音楽を手掛け、サウンドトラックは文化庁芸術祭レコード部門 優秀賞、毎日映画コンクール 音楽賞受賞。《映画:透光の樹》

2007年、盟友 菊地雅章(pf)との、日野=菊地クインテット『カウンターカレント』、デュオ・アルバム『エッジス』を発売。《エッジスは日本ジャズディスク大賞 銀賞受賞作品》

2010年、尚美学園大学客員教授就任。

2013年、dj honda、次男 日野JINO賢二を迎えたユニット「日野皓正 h factor」にてライブを行う他、同ユニットにてアルバム『Unity - h factor -』を発売。

2019年、春の叙勲 旭日小綬章受章。12月ニューアルバム『ビヨンド・ザ・ミラージュ』を発売。

また近年はチャリティー活動や後進の指導にも情熱を注ぎ、企画や画集の出版など絵画の分野でも活躍をしている。唯一無二のオリジナリティと芸術性の高さを誇る日本を代表する国際的アーティストである。

GUEST タップダンサー 熊谷 和徳

15歳でタップを始め19歳で渡米。NY Times誌に「真のタップアーティスト」と評される。

2006年には米ダンスマガジン誌より「世界で見るべきダンサー25人」に選出、14年にNYにてFlo-Bert Award、16年にはBessie Awardを受賞。

19年版ニューズウィーク誌が発表した「世界が尊敬する日本人100人」に選出される。

現在はNYと日本を2大拠点とし、ヨーロッパやアジアなど世界各地に活動の場を広げる。独自の唯一無二のアートは日々進化し、新たなタップダンスの未来を創造している。

東京2020オリンピック開会式において出演、振付、作曲を行う。



加藤 一平(gt)

1982年東京都出身。20歳の時にギターを独学はじめ、都内各所のセッションで腕を磨く。23歳の時、NYへ。ジャムセッション、ライブで腕を磨く。帰国後、鈴木勲OMA SOUND、日野皓正クインテット、渋谷知らず、Fuwa Works (from 渋谷知らず)、など、多数のグループのサポートメンバーとしてライブやレコーディングで活躍をしている。また自身のバンド「鳴らした場合」での活動でも注目を浴びている。



高橋 佑成(pf)

1994年東京生まれ。明治学院大学文学部芸術学科卒業。13歳の頃から独学でジャズを始める。その後中学生対象の世田谷ドリームジャズバンドに加入。日野皓正氏を始めとしたジャズミュージシャンに触れ音楽を学ぶ。現在は世田谷トリオ、m'fe、日野皓正クインテット、自身が主宰する音楽ユニット“秘密基地”、STUTSや七尾旅人、Mirage Collectiveなどのバンドに参加し、ジャズに限らず多岐に渡って活動している。



Marty Holoubek (b)

オーストラリア出身。アデレード大学音楽科、モナシュ大学大学院音楽研究科を卒業。在学中より数多くの素晴らしい音楽家と活動を共にする。2015年に初来日。2018年から拠点を東京に移し、2019年-2020年のムジカ・ピッコリーノ、崎山蒼志、ROTH BART BARONのベースプレーヤーとして活躍。現在もAnswer to Rememberをはじめとする人気グループにて活躍する他、日本とオーストラリアの国際交流にも力を注いでいる。



高橋 直希(ds)

北海道江別市出身。小学1年から中学3年までの9年間札幌ジュニアジャズスクールに在籍。在籍中はタイガー大越、渡辺貞夫、デビッド・マシューズなどから指導を受ける。2016年以降、札幌市内を中心に勢力的にライブ活動を行う。2017年8月パークリー音楽大学講師陣による、北海道グループキャンプを受講しBerklee Awardを受賞。2018年11月日野皓正クインテットのメンバーとして3公演に参加。2020年上京し、日野皓正クインテット他、大橋トリオなど多数のバンドに在籍しライブ活動を行なっている。

